

## 冬の除雪作業と職業奉仕

今回のウィンター交流会で、「それぞれの職業奉仕物語」のお話を聞いて、自分は普段建設会社に勤めているが、建設業の社会貢献とは何か、建設業の職業奉仕とは何かをあらためて考えてみた。

建設業といっても、道路工事を行う会社もあれば、水道工事を行う会社もあるし、ほ場整備を行う会社もある。大規模な工事であっても、小規模な工事であっても、建設業というのは、社会に残るものを造る仕事、つまり、そういう形で社会貢献している業種だと思った。

それでは、建設業に従事する自分が胸を張って社会貢献や職業奉仕を語れることとは何だろうか。

自分の仕事の中で、冬季間の除雪作業のことが頭に思い浮かんだ。山形県は雪国であり、大量の雪が降るうえに、庄内では地吹雪が多く、それによって吹き溜まりも発生する。そのためいくつかの会社が除雪を請け負っている。私の会社もそうだ。

除雪は主に深夜から朝方にかけて行われる。自分は運転手の助手として除雪車に搭乗し、深夜から朝までの約6時間の中で、運転手が除雪している時に除雪車の後方確認等の補助を行っている。先日、除雪作業が2時間、3時間と過ぎていった頃に、運転手さんから話を聞いてみたくなり、話を振ってみた。

運転手さんは除雪するようになってからだいたい40年くらい経つとのことだった。「どうして長い間除雪に出ているのか」を尋ねてみた。「一番はお金のためかな」とのことだった。まあ、金のためだよな、そういうものなのかと思いつつも除雪の作業は続いていった。

除雪作業の中でふと気付いたことがあった。道路を除雪する時は同じ方向に雪を集めて、1箇所に積み上げるのが一般的な除雪方法であるが、集落に入った所で、運転手さんの雪の集め方が違うのだ。1回道路の中央部分を除雪し、家の入口の所では除雪車のブレードの向きを変えて、住宅の入口に雪を落とさないようにしつつ、ギリギリまで脇に寄って集められる雪の山を回収しているのだ。

運転手さんに話を聞くと、その家は足が不自由な方のお宅だそうで、他にも高齢者の1人暮らしのお宅など、自宅前を除雪するのが大変なお宅の所では、特に丁寧な除雪を心掛ける様になっているとのことだった。また、道路の除雪に合わせて、集落内にすでに集められた雪の山も一緒に集落外に運んでいた。

自分は、運転手さんのこのような細かな配慮に、職業奉仕ということ、建設業の社会貢献ということの意味を感じ取ることができた。

運転手さんは、言葉では「お金のため」としか言わなかったが、実際の除雪作業は、そこに住む住民の方々のことを思い描きながら、その方々のために、心を込めて丁寧な作業を心がけているのだ。

自分は、運転手さんのこと、自分の仕事のことを少し誇らしく思った。

今日も雪が降れば、除雪車は走る。住民のために。